

和歌山県の地震

令和3年5月

1. 和歌山県の地震活動

震央分布図	・・・・・・・・ 1
概況	・・・・・・・・ 1
断面図	・・・・・・・・ 2
和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧	・・・・・・・・ 3
震度分布図	・・・・・・・・ 4

2. 地震一口メモ

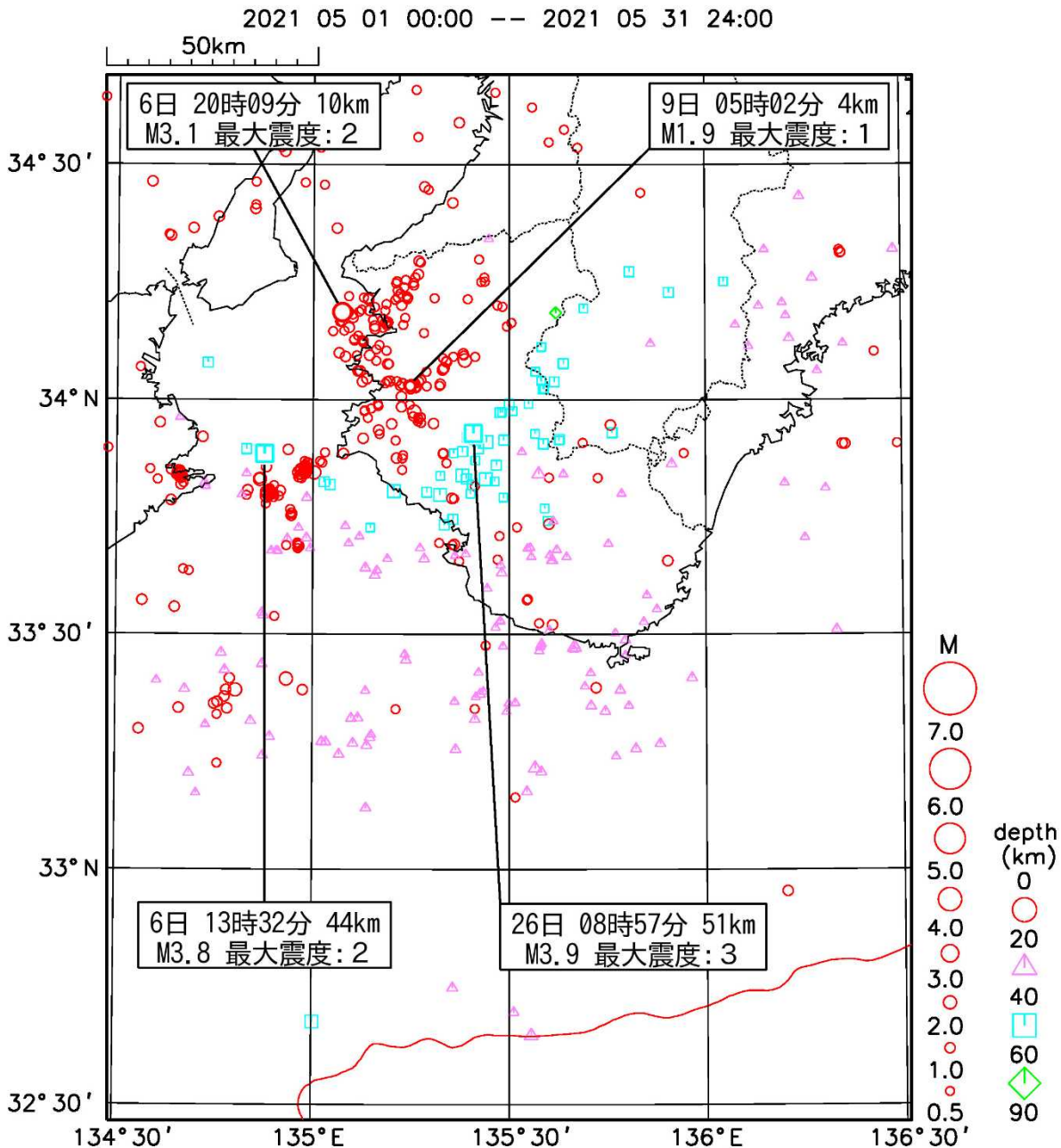
南海トラフ地震に関連する情報について	・・・・・・・・ 6
--------------------	------------

- * この資料に使われている震源要素（北緯・東経）は、世界測地系に基づいています。
- * この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- * この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図25000（行政界・海岸線）を使用しています。

和歌山地方気象台

1. 和歌山県の地震活動

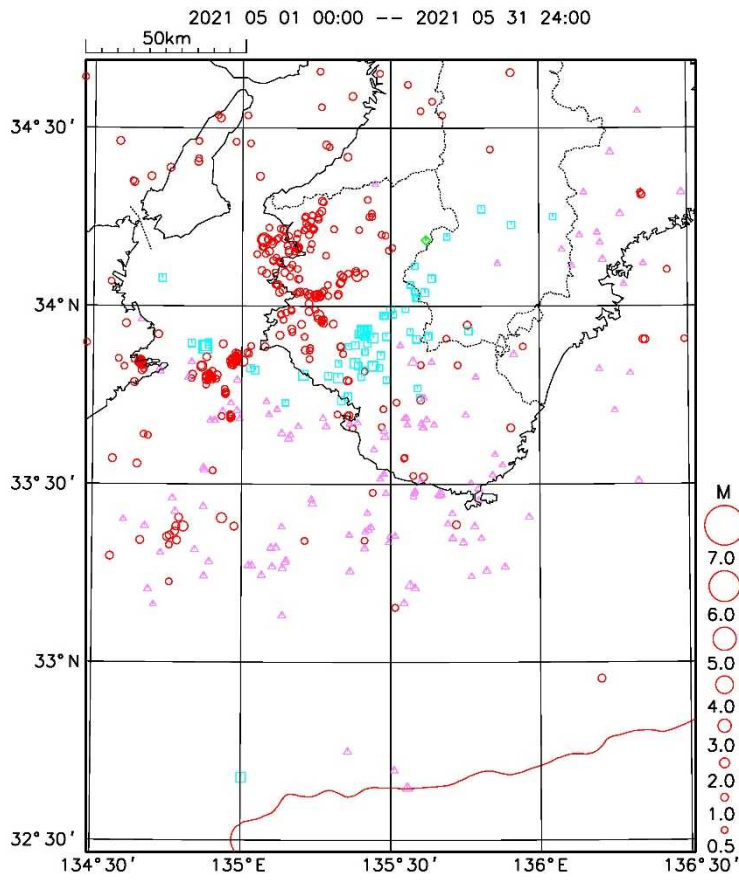
【震央分布図】



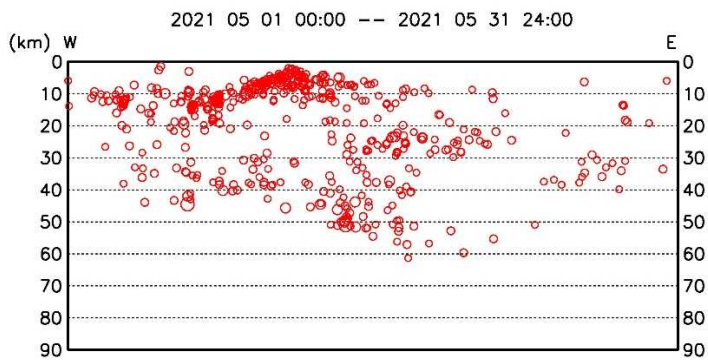
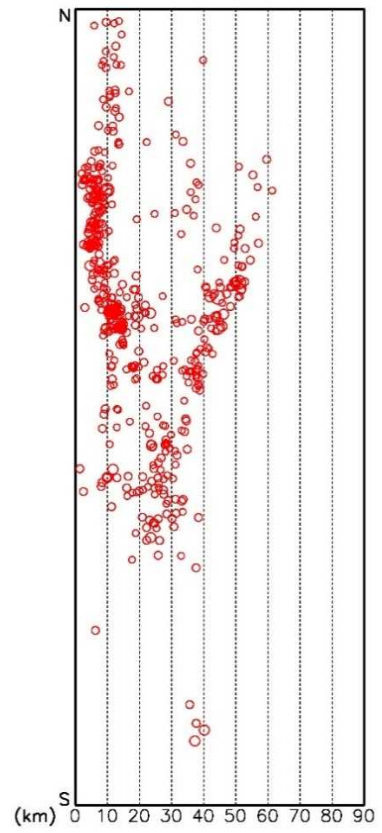
【概況】

5月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード（M）2.0以上の地震は25回（前月は36回）でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、26日08時57分和歌山県南部の地震（深さ51km、M3.9）でした。この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。5月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、4回（前月6回）でした。

【断面図】



2021 05 01 00:00 -- 2021 05 31 24:00



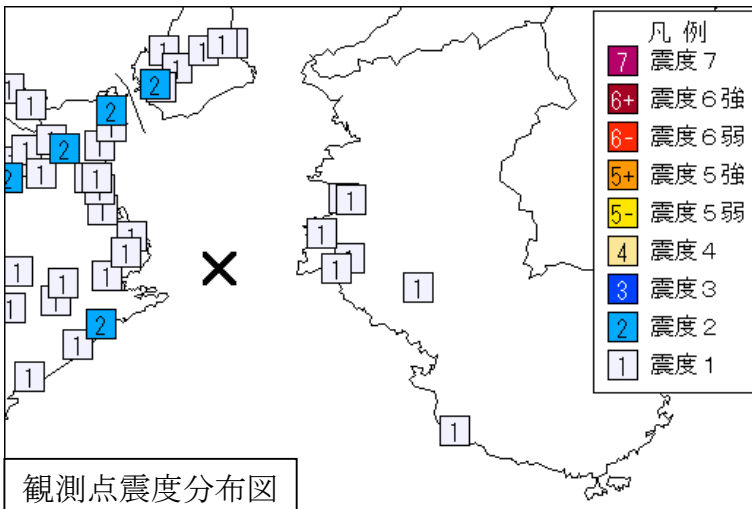
【 和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧 】

発震時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度（和歌山県内のみ掲載）					
2021年05月06日13時32分	紀伊水道	33° 53.1' N	134° 52.5' E	44km	M3.8
和歌山県 震度 1：御坊市菌, 湯浅町青木*, 和歌山広川町広*, 由良町里*, みなべ町土井 日高川町土生*, 白浜町日置*					
2021年05月06日20時09分	紀伊水道	34° 11.1' N	135° 04.3' E	10km	M3.1
和歌山県 震度 2：海南市下津* 震度 1：和歌山市男野芝丁, 和歌山市一番丁*, 有田市箕島, 有田市初島町*					
2021年05月09日05時02分	和歌山県北部	34° 01.7' N	135° 14.8' E	4km	M1.9
和歌山県 震度 1：湯浅町青木*					
2021年05月26日08時57分	和歌山県南部	33° 55.7' N	135° 24.5' E	51km	M3.9
和歌山県 震度 3：白浜町日置* 震度 2：みなべ町土井, みなべ町芝*, 日高川町土生*, 田辺市中辺路町近露 田辺市中辺路町栗栖川*, 田辺市本宮町本宮*, 田辺市中屋敷町*, 白浜町消防本部 上富田町朝来*, すさみ町周参見* 震度 1：和歌山市男野芝丁, 和歌山市一番丁*, 海南市下津*, 有田市箕島, 有田市初島町* 御坊市菌, 湯浅町青木*, 和歌山広川町広*, 和歌山美浜町和田* 和歌山日高町高家*, 由良町里*, 和歌山印南町印南*, 日高川町高津尾* 日高川町川原河*, 有田川町下津野*, 有田川町中井原*, 田辺市鮎川* 田辺市龍神村西*, 新宮市新宮, 新宮市磐盾*, 新宮市熊野川町日足*, 串本町串本* 古座川町高池					

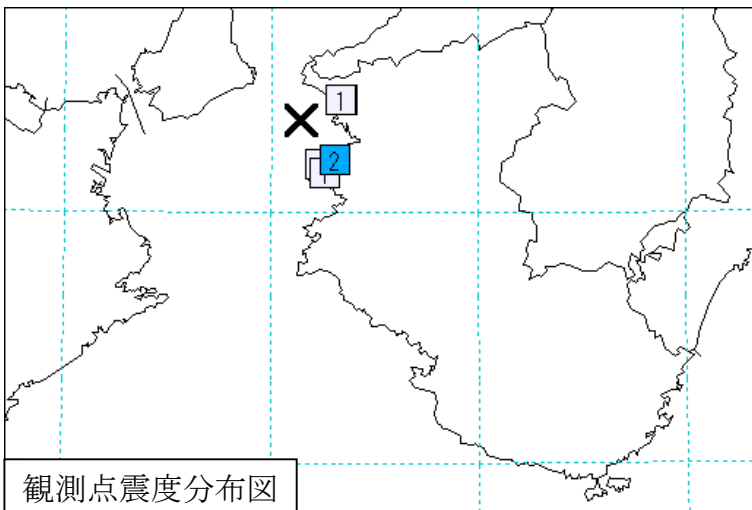
名の最後に*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

【震度分布図（図中の×は震央）】

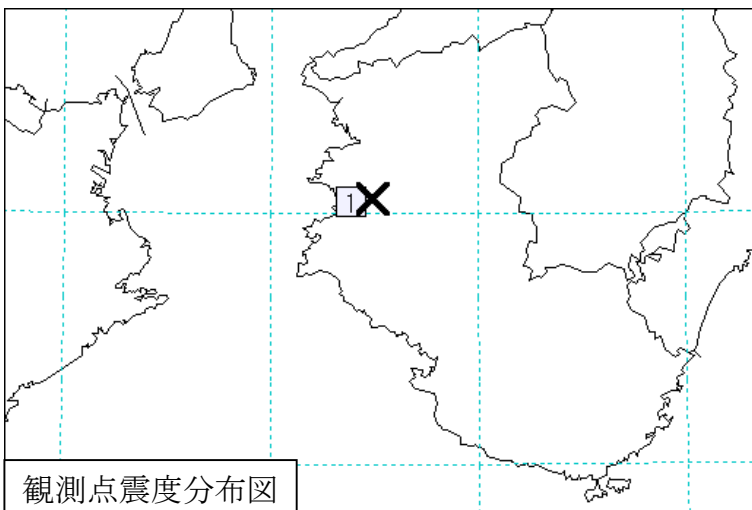
2021年05月06日13時32分 紀伊水道の地震（深さ44km、M3.8）



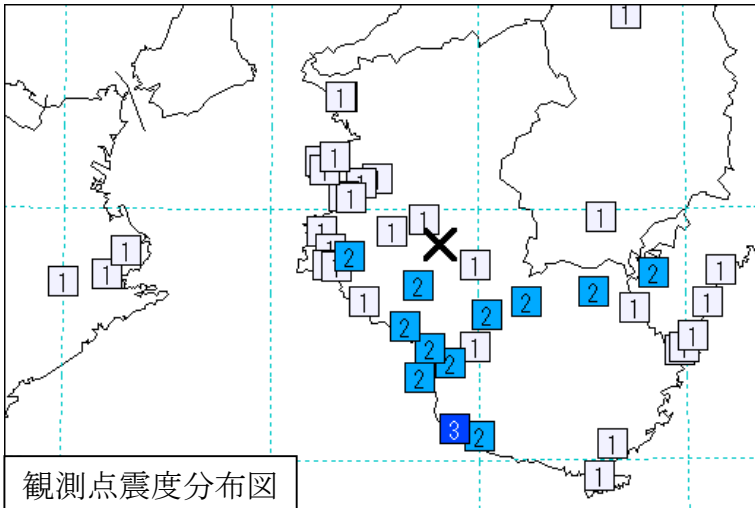
2021年05月06日20時09分 紀伊水道の地震（深さ10km、M3.1）



2021年05月09日05時02分 和歌山県北部の地震（深さ4km、M1.9）



2021年05月26日08時57分 和歌山県南部の地震（深さ51km、M3.9）



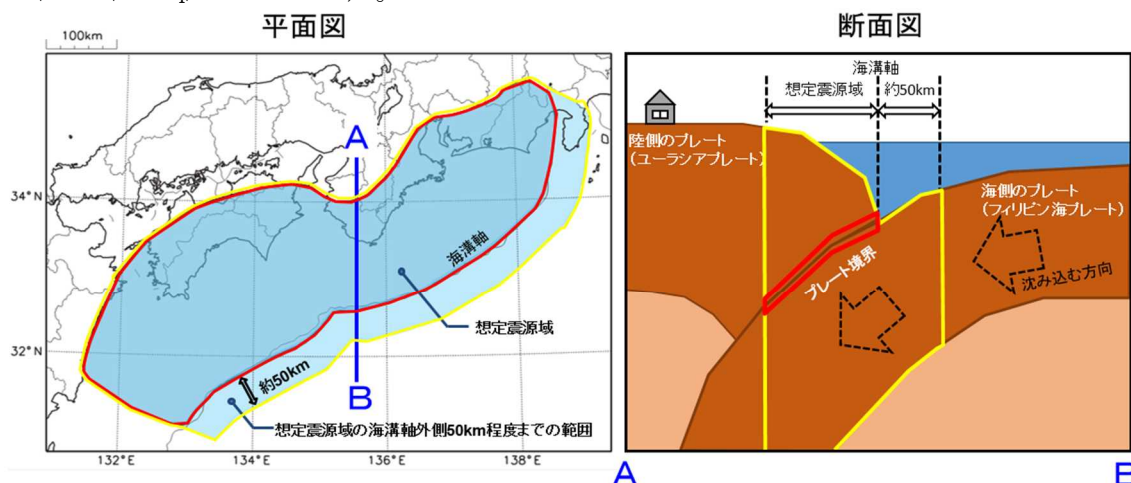
2. 地震一口メモ

南海トラフ地震に関する情報について

(1) 南海トラフ地震の監視領域と発表する情報

気象庁は、下図の監視領域内の地震活動や地殻変動を24時間体制で監視しています。南海トラフ地震に関する情報は、南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、この情報の種類と発表条件は下表のとおりです。

発表した情報は、気象庁ホームページにも掲載されます (<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nteq/index.html>)。



想定震源域内（科学的に想定される最大規模の南海トラフ地震の想定震源域（中央防災会議、2013））のプレート境界部（図中赤枠部）と監視領域（想定震源域内および想定震源域の海溝軸外側50km程度：図中黄枠部）

情報名	発表条件
南海トラフ地震 臨時情報	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
南海トラフ地震 関連解説情報	<ul style="list-style-type: none"> 観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（南海トラフ地震臨時情報を発表する場合を除く）

(2) 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」と「地震防災対策強化地域判定会」

気象庁では、南海トラフ全域を対象として地震発生の可能性を評価した結果を「南海トラフ地震に関する情報」として発表するにあたり、有識者から助言をいただくために「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」（以下、「評価検討会」）を開催しています。

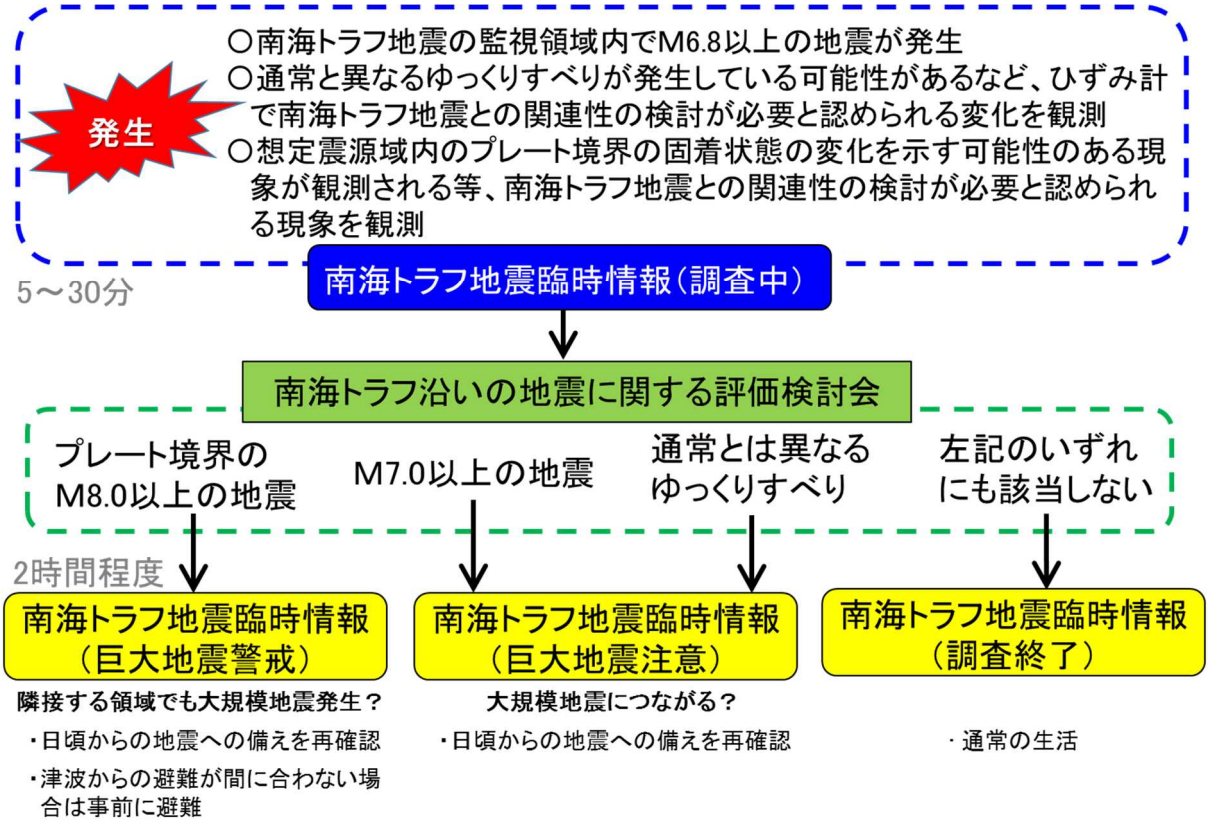
また、東海地域で異常な現象が捉えられた場合に、その現象と大規模な地震との関連性を緊急に検討する「地震防災対策強化地域判定会」（以下、「判定会」）も合わせて開催されます。

評価検討会及び判定会は、観測データに異常が現れた場合に緊急に評価するための臨時の会合と、平常時から観測データの状況を把握するために原則毎月1回開催している定例の会合があります。

(3) 「南海トラフ地震臨時情報」の発表の流れ

南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合は、以下の流れで情報が発表されます。

また、「南海トラフ地震臨時情報」は、評価結果等に応じて情報名の後に、「調査中」、「巨大地震警戒」、「巨大地震注意」、「調査終了」を付記して発表します。



※ 南海トラフ沿いの大規模地震 (M8~M9 クラス) は、「平常時」においても今後 30 年以内に発生する確率が 70~80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から既に 70 年以上が経過していることから切迫性の高い状態です。

※ 南海トラフ沿いで異常な現象が観測されず、本情報の発表がないまま、突発的に南海トラフ地震が発生することもあります。

※ 地震発生の可能性が相対的に高まったと評価した場合でも南海トラフ地震が発生しないこともあります。